

Roof on the Hill

設計:竹口健太郎+山本麻子/アルファヴィル

緩やかな斜面に載る

ハイサイドライトのある大きな屋根

竹口健太郎 | Kentaro Takeguchi

山本麻子 | Asako Yamamoto

初めてこの敷地を見た時、なだらかに下っていく斜面と、その先に遥かにかすむ大阪市街の風景が印象的だった。しかし、新しく開発された周辺宅地では斜面は全く活かされておらず、早晚、普通の住宅地になっていくことが予想された。そこで、この斜面の気持ち良い風景を残せるような、斜面に屋根を掛けただけの建物考えた。

段状の敷地に、約3×3mの小さなグリッドをかぶせ、寝室、子供部屋、水まわりには壁を巡らせて囲い取り、残りの部分を一体となったダイニング、リビング、和室とした。100mm角の柱と150×100mmの梁という木造のように細い鉄骨骨組みの上にデッキプレート載せて屋根とし、屋根のブレース材として、同サイズの鉄骨を入れたが、これを2段に設け、間にガラスを入れて、南向きのハイサイドライトが出来るように構造を工夫した。隣家や道路の視線が気になる四周には通風用の小さな窓のみとする一方、採光効果の高い、細いハイサイドライトが2本、家中を貫くように走っているため、平屋の中央の部分も常に自然光で明るく、外壁からの熱損失が少なく、温度変化の緩やかな住宅となる。そ

して斜面に沿わせるために、のこぎり状に屋根と棟を連続させ、合間から光の落ちる屋根は、それを支える細い鉄骨部材と相まって、室内に木立のような落ち着きと広がりを生み出している。

自然の地形、用途に応じたグリッド、環境を整えるための45度のハイサイドライト。機能や用途に応じる、それぞれに合理的な操作を重ね合わせた結果、空間としては、床の高さ方向の変化と、90度に交わる部屋に、さらに45度方向に広がる天井高さの変化が重なり合い、立つ位置の小さな変化で思いがけない景色の広がる住宅が出来上がった。特に一体となった、ダイニングとキッチン、リビングと書斎、そして和室では、それぞれ1m程度の段差があると同時に、雁行してつながり合い、そこにハイサイドライトからの光が降り注ぎ、ひとつの部屋ながら、斜めに、上方へと視線が広がり、どこまでも空間がつながっていくような錯覚すら起こさせる。

水まわりでは、トイレ、洗濯機置き場、洗面・浴室、テラスを機能的にひとつのグリッド内に配した。それぞれの面積は決して広くないが、洗面・浴室ともに、全面ガラスのテラスに、やはり全面ガラスで面することで、非常に明るく、それでいて断熱効果の高い、寒くない水まわりを考えた。



たけぐち・けんたろう——建築家/1971年生まれ。1994年、京都大学工学部建築学科卒業。1995-96年、AAスクール留学(ロンドン、FOAに師事)。1998年、京都大学大学院修士課程修了。

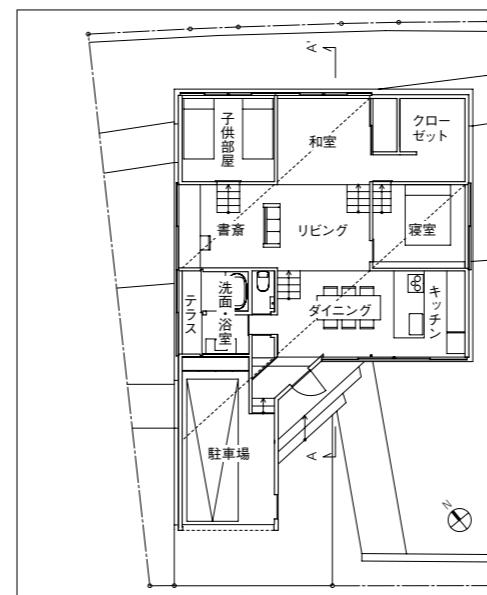
同年、アルファヴィル設立。現在、神戸大学、京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都橋大学、宝塚大学非常勤講師。2012年、大阪産業大学特任教授。

やまもと・あさこ——建築家/1971年生まれ。1994年、京都大学工学部建築学科卒業。1995-96年、パリ建築学校ラ・ヴィレット校留学。1997年、京都大学大学院修士課程修了。同年、山本理顕設計工場勤務。

1998年、アルファヴィル設立。現在、京都市立芸術大学、京都造形芸術大学、京都橋大学、滋賀県立大学非常勤講師。

主な作品:House Twisted[2008]、New Kyoto Town House[2010]、Digin the Sky[2011]、House Folded[2011]など。

1——リビングからダイニング方向を見る | 2——南西面全景 | 3——ダイニングからリビング、その奥の和室を見る | 4——ダイニングからキッチンを見る | 5——浴室

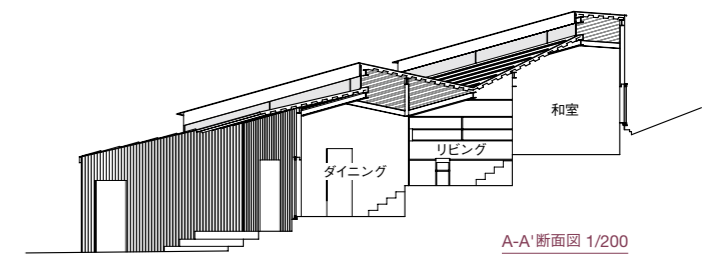


1階平面図 1/250

建築概要

名称:Roof on the Hill | 所在地:兵庫県宝塚市 | 家族構成:夫婦+子供2人 | 敷地面積:232.31㎡ | 建築面積:99.87㎡ | 延床面積:99.87㎡ | 規模:地上1階 | 構造:S造 | 工期:2010.6-2010.12 | 設計:竹口健太郎+山本麻子/アルファヴィル | 施工:大澤工務店

●INAX使用商品 | 浴室 | 浴槽:グラスティン浴槽 ABN-1300/W91、床タイル:サーモタイル フォーツ IFT-200/QZ-31



A-A'断面図 1/200